

12月学習会
第34回

DAS KAPITAL

「資本論を読む会」Zoomで開催

日時：12月23日（木）午後6時30分から

「第12章 第5節 工場手工業の資本主義的性格」（岩波文庫(二)308P）から。

立憲民主党代表選挙の前夜、11月29日の「資本論を読む会」には10名(地方からは3名)が参加。「第4節 工場手工業内の分業と社会内の分業」(295Pから)を討論しました。

前回出されていた宿題には、お二人からメモが提出されていますので、それをご覧ください。

次回はクリスマス前々夜の23日開催。「第5節 工場手工業の資本主義的性格」に入ります。来春からは、いよいよ「第13章 機械装置と大工業」に突入です。

討論後の自主懇親会では、立憲の党首選について話題となりましたが、翌30日の大会では泉健太氏が選ばれました。決戦投票の逢坂氏ともども北海道出身。「安定感」では逢坂氏ですが、泉氏には「若さと刷新感」に期待するということでしょうね。



初参加の方歓迎！ 別途お送りするZoomアドレスからお入りください。楽しくやりましょう！

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎「資本論を読む会」3周年の感想…ホームページ「BBS掲示板」もご覧ください。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/> 「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから--Kai

第十二章 分業と工場手工業 第4節 工場手工業内の分業と社会内の分業

■三種の分業

①一般的分業……国民的労働の三主要部門(農業生産者、工業者および商人)に対応する。

・農業、工業等のような大部門への社会的生産の分業

②特殊的分業……各労働部門の諸種類への分業である。

③個別的分業……本来の意味での分業と呼ばれるもので、個々の作業および職業の内部で行なわれ、工場や作業場で行なわれる。・一作業場内の分業を個別的分業と呼ぶ。

【超訳『資本論』より】———・工場内の分業(工場の中で行なわれる労働の分割)・社会内分業(社会の中で行なわれる労働の分割) * 社会内分業は、当然、人類の歴史の始まりから始まる。「商品生産と商品流通は資本主義的生産様式の一般的前提であるがゆえに、マニュファクチュア的分業は、社会内部のすでにある発展段階まで成熟した分業を前提とする。逆に、マニュファクチュア的分業は、社会内分業を今度は反作用として発展させ、倍加する。」社会内分業の一定の成熟によって、工場内の分業、その初期形態としての「マニュファクチュア的分業」が生まれると、今度は逆に社会内分業を促進していくという関係は、二つの分業がある段階から相互作用をもって発展しあうということを意味しています。

◆マルクスは、インドの(太古的な)小共同体についてふれ、分業が発達しないこと、同職組合組織が、工場手工業的分業を容れず、阻止していた旨記述する。しかし、協業が進められ、分業生産をなすようになり、資本主義生産体制が発展していく、そして、言う。

『工場手工業的分業は、資本主義的生産様式の全く特有なる創造物である。』と。